

# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## 【1】 岐阜城跡 (山城)

場 所：岐阜県岐阜市 (金華山)

築城年：1201年

城 主：二階堂行政、齋藤道三、齋藤義龍、齋藤龍興、織田信長

備 考：15世紀中頃、美濃守護代・齋藤利永が修復して居城。1525年、齋藤氏家臣の長井長弘と長井新左衛門尉が謀反を起こし、長井氏の支城となる。1535年、新左衛門尉の子、長井新九郎規秀(齋藤利政、後の齋藤道三)が城主となる。1541年、利政は守護の土岐頼芸を追放。1547年、織田信秀、頼芸派の家臣と城下まで攻めるも大敗。1554年、利政、城と家督を嫡子の齋藤義龍に譲り、道三と号する。1556年、義龍、長良川の戦いにより道三を討ち取る。1561年、義龍の急死により、齋藤龍興が13歳で家督を継ぎ、城主となる。同年6月、十四条の戦いに勝利した織田信長が稲葉山城を攻めるも大敗。1564年、齋藤氏の家臣・竹中重治と安藤守就が造反して挙兵。稲葉山城を攻める。龍興らは城を捨てて鵜飼山城へ逃げ、竹中らが城を半年間占領する。

1567年、織田信長が西美濃三人衆の内応により稲葉山城下に進攻。龍興は城を捨てて長良川を舟で下り、伊勢長島へ逃亡。同年、信長は本拠地を小牧山城から稲葉山に移し、城と町の名を「岐阜」と改めた。この頃から信長は「天下布武」の朱印を用いた。1576年、信長は嫡子・織田信忠を岐阜城の城主とし、織田家の家督及び美濃、尾張の2ヶ国を譲る。



【岐阜城から長良川と鷺山城を望む】



【秀吉が岐阜城攻略のために登った  
長良川側からの稲葉山】



【信長像と金華山頂の岐阜城】



【信長居館跡への門】



【信長居館跡】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.16  
草 雲

## [2] 菩提山城跡 (山城)

場 所：岐阜県不破郡垂井町岩手

築城年：1559年

築城者：竹中重元

備 考：菩提山城（ぼだいさんじょう）は、竹中重元（竹中半兵衛の父）が岩手弾正を滅ぼした（1558年）後、竹中氏の居城として築城され、山麓に竹中氏陣屋が築かれるまで使用された。西美濃では最大級の山城。

伊吹山系の東端にある菩提山（402m）の山頂に築かれた東西150m、南北300mの山城で、竹中重元が同地の豪族であった岩手氏を滅ぼして新たに築城した。

以後、重元、重治（竹中半兵衛）、重門の3代にわたり使用され、重門が山麓の竹中氏陣屋に居を移したことで廃城となった。

1560年、重元が病没し、重治（半兵衛）が家督を継ぎ城主となった。



【菩提山山麓の陣屋跡】



【竹中半兵衛菩提所と菩提山】

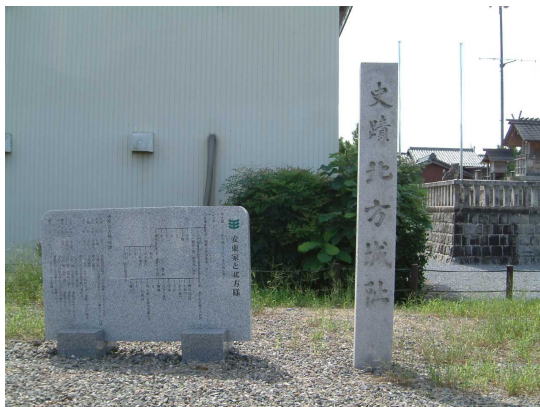
## [3] 北方城跡 (平城)

場 所：岐阜県本巣郡北方町北方 249

築城年：不明

築城者：伊賀太郎衛門光就

備 考：4代目城主の伊賀太郎衛門守就から安藤氏を名乗り、安藤守就に改名。守就は当初、土岐頼芸に仕えていたが、美濃が斎藤道三によって奪取されると、道三の家臣として仕えた。稲葉良通（一鉄）や氏家直元（ト全）らと並んで、西美濃三人衆と称された。1556年、道三と斎藤義龍の抗争（長良川の戦い）では義龍に協力し、義龍の没後は斎藤龍興に仕えた。しかし、1580年、甲斐の武田勝頼と内通した罪により、信長によって織田氏から追放され、北方城城主には稲葉良通がなった。1582年、本能寺の変で信長が明智光秀に討たれると、守就は挙兵して北方城を奪い再起を試みた。しかし、稲葉良通に攻められ敗死。北方城は廃城となった。



【北方城址の石碑】



【北方城址】

# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.16  
草 雲

## [4] 曾根城跡 (平城)

場 所：岐阜県大垣市曾根町1丁目

築城年：1558年～1569年

築城者：稲葉一鉄

備 考：曾根城は、西美濃三人衆の一人、稲葉良通（一鉄）が築城した平城。春日局ゆかりの地でもある。春日局がこの地で誕生したという説もある。本能寺の変後、稲葉一鉄は豊臣秀吉の不審を買い、現在の揖斐郡揖斐川町清水に退く。その後、1588年、西尾光教が城主となった。

斎藤利三(明智光秀の甥で重臣) ———— 春日局  
稲葉一鉄の娘 ————



【曾根城跡の石碑】



【曾根城跡】

## [5] 大垣城跡 (連郭輪郭複合式平城)

場 所：岐阜県大垣市郭町2-52

築城年：伝 1500年

築城者：伝 竹腰尚綱

備 考：大垣城は、西美濃三人衆の一人、氏家直元（卜全）が城主となった平城。1500年に竹腰尚綱によって揖斐川（牛屋川）東河岸にあった牛屋に築かれたとも云われ、1535年に、宮川安定が大尻に築いたとも云われる。この当時は牛屋城と呼ばれていたとされる。宮川氏築城当時は、牛屋川を外堀の代わりに利用し本丸と二の丸のみであったと云う。氏家氏、伊藤氏によって改築が加えられたと云われる。1544年に織田信秀により落城し、織田信辰が5年間城主を務めた。1549年、斉藤氏配下の竹越直光が城主となった。織田氏、斉藤氏、織田氏と支配権が移った後で豊臣秀吉により、1583年に池田恒興が城主となった。1600年、関ヶ原の戦いの際には、石田三成らが入場して西軍の根拠地となった。



【大垣城東門跡】



【大垣城跡】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.16  
草 雲

## 【6】 鵜沼城跡 (連郭式山城)

場 所：岐阜県各務原市鵜沼南町7-23

築城年：不明

築城者：大沢治利

備 考：1429年～1441年頃に大沢治利によって築かれたと云われる。大沢治利が和泉国から美濃に移ってきて城を築いたと云う。

大沢氏は斎藤道三などに従い、1564年に織田信長は木下藤吉郎に鵜沼城の攻略を命じるが、鵜沼城主・大沢正重は強く抵抗。藤吉郎の調略によって正重は降伏するが、信長は降伏した正重の変心を恐れ殺害を企てた。しかし、藤吉郎の計らいで正重は逃されたと云われる。その後、鵜沼城は犬山城主の池田恒興に与えられた。小牧・長久手の戦いの中、1584年、秀吉勢の池田恒興は、東美濃へ向かうと見せかけて旧領である鵜沼城へ入城し、犬山城を攻略した。



【木曾川の犬山側岸から望む】



【木曾川の鵜沼側岸から望む】

## 【7】 墨俣城跡 (平城)

場 所：岐阜県大垣市墨俣町墨俣1742-1

築城年：不明 (1561年、1566年)

築城者：不明 (木下藤吉郎)

備 考：長良川西岸の洲股(墨俣)の地は交通上・戦略上の要地で、戦国時代以前からしばしば合戦の舞台となっていた。

斉藤氏側で築いた城は斎藤利為らが城主を務めた。

また、1561年ないし1566年の織田信長による美濃侵攻にあたって、木下藤吉郎がわずかな期間でこの地に城を築いたと伝えられている。これがいわゆる墨俣一夜城であるが、不明な点が多く、様々な議論がある。

1586年、木曾三川の大氾濫で木曾川の流路が現在の位置に収まったので、墨俣は戦略上の重要性を失い、以来この地が城として使われることはなかった。



【墨俣城址】



【墨俣城址防御柵】

# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## 【8】 可児明智城跡 (連郭式山城)

場 所：岐阜県可児市瀬田長山

築城年：1342年

築城者：明智頼兼

備 考：1342年、美濃源氏の流れをくむ土岐頼兼が「明智」と改名してこの城を築き、その後約200年の間、明智氏代々の居城として栄えた。別名、長山城または明智長山城と呼ばれている。

明智城は土岐美濃守光衡より五代目にあたる頼清の次男、明智次郎頼兼が明智城を築城し、明智光秀の代まで居城した。光秀生誕の地とされる。

この城は1556年、稲葉山城主・斎藤義龍の攻撃を受け、明智城代・明智光安は870余人を集めて籠城した。しかし義龍軍は3700余の軍勢で2日間にわたり攻撃した。光安は光秀に明智家再興を託し弟光久と自刃し、妻妾も落城前に自刃した。



【明智城本丸跡】



【城跡からの北方向の展望】

## 【9】 苗木城跡 (山城)

場 所：岐阜県中津川市苗木

築城年：1526年

築城者：遠山一雲入道昌利

備 考：1526年、遠山一雲入道昌利は福岡植苗木広恵寺城から苗木高森に館を移す。

1560年、苗木城主・勘太郎は桶狭間の戦いに出陣する。

1565年、苗木城主・勘太郎の娘（織田信長の養女）は武田勝頼（武田信玄の二男）に嫁ぐ。

司馬遼太郎の『国盗り物語第四巻』に、「美濃、といっても木曾に近いあたりの苗木に遠山勘太郎という城主がいる。苗木とは、現今、観光地の恵那峡あたりである。遠山氏は南北朝以来の名族で、近国で知らぬ者はいない。中略 この遠山家に、死んだ道三の正室小見の方（可児明智氏）の妹が嫁いでいる。遠山勘太郎の妻女である。それに雪姫という娘がある。濃姫のいとこ、ということで、信長は美濃経略の初期に遠山氏に工作し、見方にひき入れ、その雪姫を養女として尾張にひきとっていた。」とある。



【苗木城跡のある高森の遠景】



【苗木城跡の近景】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## [10] 清洲城跡 (平城)

場 所：愛知県清須市一場

築城年：1405年

築城者：斯波義重

主な城主：斯波氏、織田氏

備 考：1405年、尾張・遠江・越前守護の管領斯波義重によって築城。当初は、尾張守護所である下津城の別郭として建てられたが、1476年に守護代織田家の内紛により下津城が焼失し、1478年に守護所が清須に移転することで尾張国の中心となった。一時期、織田信秀が清須奉行として居城。織田信秀が古渡城に拠点を移すと守護代織田信友が入城。1555年、織田信長と結んだ織田信光によって信友が殺害され、以降、信長が那古野城から移って大改修を加えた後、本拠として居城した。信長はこの城から桶狭間の戦いに出陣するなど、約10年間清須を居城とした。1562年には、信長と徳川家康との間で同盟(清須同盟)がこの城で結ばれた。1563年、信長は美濃国斉藤氏との戦いに備えて小牧山城に移り、以後は番城となった。



【清洲城本丸跡】



【清洲城の堀の役割をした五条川】

## [11] 小牧城跡 (平山城)

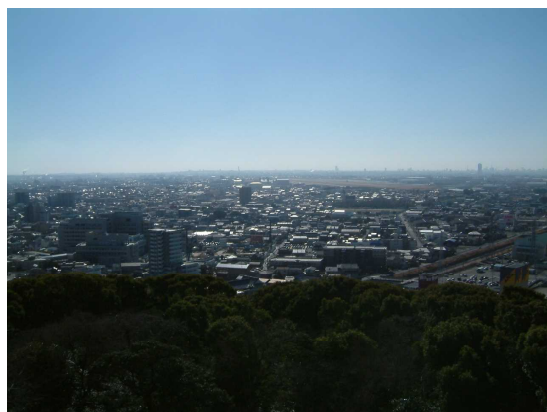
場 所：愛知県小牧市堀の内 1-1

築城年：1563年

築城者：織田信長

主な城主：織田氏、徳川氏

備 考：織田信長は、1560年の桶狭間の戦いに勝利すると、その3ヶ月後から美濃攻めを開始した。1562年に徳川家康と清洲城において清洲同盟を結び、尾張国東側の脅威を消滅させた。これにより、信長は全力で美濃国を攻める体制を整えるために、美濃国に近い尾張北方の小牧山への本拠地移転が実現可能になった。早速、丹羽長秀を奉行として、広大な濃尾平野の中に孤峰を保つ小牧山山頂に城を築き、1563年には主要兵力を小牧山城に移した。



【小牧山山頂からの展望】



【山麓の信長屋敷跡】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草雲

## [12] 一乗谷朝倉氏遺跡 (山城)

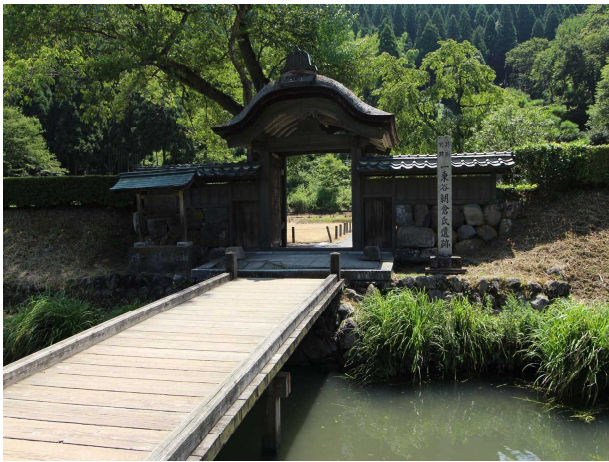
場 所：福井県福井市城戸ノ内町 28-37

築城年：南北朝時代

築城者：朝倉氏

主な城主：朝倉氏、桂田長俊

備 考：戦国時代に一乗谷城を中心に越前国を支配した戦国大名朝倉氏の遺跡。一乗谷城(山城)と山麓の城下町(朝倉氏および家臣の居館)からなる。一乗谷の南北に城戸を設け、その間の長さ約1.7 kmの「城戸ノ内」に、朝倉館、武家屋敷、寺院、職人や商人の町屋が計画的に整備された道路の両面に立ち並んでいた。一乗谷城は、朝倉氏によって当主館の東側背後、西方に福井平野を一望できる標高473 mの一乗城山に築城された中世山城である。15世紀前半には築かれていたと考えられる。一度も戦闘に使用されることなく廃城となった。



【朝倉義景館跡の唐門】



【朝倉義景館跡の堀と土塁】

## [13] 金ヶ崎城跡 (山城)

場 所：福井県敦賀市金ヶ崎町

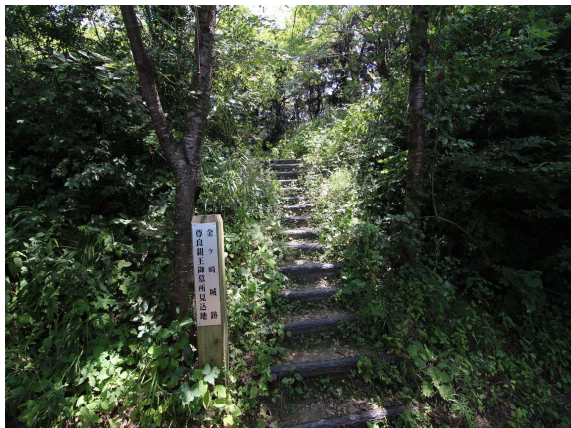
築城年：源平合戦時代

築城者：平通盛

主な城主：氣比氏、甲斐氏、朝倉氏

備 考：敦賀市北東部、敦賀湾に突き出した海拔86mの小高い丘(金ヶ崎山)に築かれた山城。源平合戦の時、平通盛が木曾義仲との戦いのためにここに城を築いたのが最初と伝えられる。現在でも月見御殿(本丸)跡、木戸跡、曲輪、堀切等が残っている。

国盗り物語では、朝倉氏を頼り金ヶ崎城に身を置いた足利義昭と一乗谷の朝倉義景との間を行き来する明智光秀の様子が記述されている。



【金ヶ崎城跡】



【月見御殿からの展望】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## 【14】 武田氏館跡 (連郭式平城)

場 所：山梨県甲府市古府中町 2611

築城年：1519 年

築城者：武田信虎

主な城主：武田氏、徳川氏、豊臣秀勝、浅野長政

備 考：甲斐国守護武田氏の居館は、躑躅ヶ崎館（つつじがさきやかた）とも呼ばれ、戦国大名武田氏の領国経営の中心地であった。現在、跡地には武田神社があり、「武田氏館跡」として国の史跡に指定されている。戦国時代に築かれた甲斐源氏武田氏の本拠地で、居館と家臣団屋敷地や城下町が一体となっている。信虎、信玄、勝頼3代の60年余りにわたって府中として機能した。信玄時代の武田氏は大きく所領を拡大させ、信濃、駿河、上野、遠江、三河などを勢力下に収めたが、本拠地は一貫して要害山城を含む躑躅ヶ崎館であった。



【武田氏館跡の武田神社】



【武田氏館跡の土塁と水堀】

## 【15】 坂本城跡 (平城、水城)

場 所：滋賀県大津市下坂本 3

築城年：1571 年

築城者：明智光秀

主な城主：明智光秀、丹羽長秀、浅野長政

備 考：坂本城は、琵琶湖の南湖西側にあり、大津市の北郊に位置する。西側には比叡山の山脈があり、東側は琵琶湖に面していることから、天然の要塞を具えた地であった。坂本は比叡山の物資輸送のための交通の要所で港町として繁栄していた。1571 年、比叡山焼き討ちの後、織田信長は明智光秀に近江国滋賀郡を与え、京と比叡山の抑えとして坂本城の築城を命じた。宣教師のルイス・フロイスは、著書『日本史』に「豪壮華麗で安土城に次ぐ名城」と記している。



【坂本城跡】



【坂本城跡から琵琶湖を望む】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## [16] 小谷城跡 (梯郭式山城)

場 所：滋賀県長浜市湖北町伊部

築城年：1516年

築城者：浅井亮政

主な城主：浅井氏、羽柴秀吉

備 考：城跡は国の史跡に指定されている。日本五大山城の一つに数えられる。浅井長政とお市の方との悲劇の舞台として語られる城である。

戦国大名浅井氏の居城で、堅固な山城として知られたが、織田信長に4年間攻められ落城した。その後、北近江の拠点は大谷城に移され廃城となった。1570年、小谷城から南に5キロ程の地点で繰り広げられた姉川の戦いでは、浅井・朝倉連合軍と織田・徳川連合軍が激突し、織田軍が勝利したものの、信長は小谷城の堅固さを考慮して城攻めを断念、姉川南岸に横山城を築城、有力武将の木下秀吉を配置し、浅井氏に対する付城（前線基地）とした。



【小谷城が築かれた山】



【小谷城が築かれた山】

## [17] 横山城跡 (山城)

場 所：滋賀県長浜市堀部町・石田町

築城年：1561年

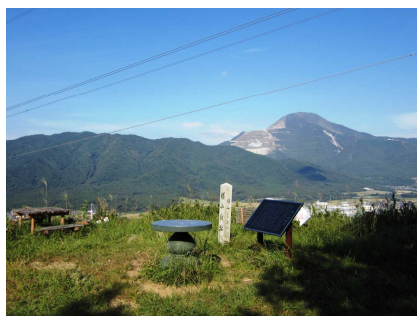
築城者：浅井長政

主な城主：浅井井演、木下秀吉

備 考：1570年～1573年の織田信長と浅井長政の激しい戦いの拠点であり、信長の部将であった木下秀吉が城番として守備していたことで知られる。

横山城は近江北部の浅井郡と坂田郡とを分ける姉川の南岸の山の峰続きに、1561年、浅井長政が対六角氏用の防護拠点として築かせた。

横山城は美濃関ヶ原から浅井氏の本拠地である小谷城の西側を通る北陸脇往還街道のすぐ脇に立地するうえに、小谷城から6～7km程の距離しかないため、信長は重要な前線基地として横山城の攻略を目指した。姉川の戦いで浅井・朝倉連合軍を破った信長は横山城の攻略に着手し、横山城は落城した。信長は城番として木下秀吉を任命。秀吉はここを拠点に浅井氏攻略を行った。1573年、浅井氏が滅亡すると、秀吉は浅井郡、坂田郡の支配権を与えられ、本拠地として長浜城を築城。これに前後して横山城は廃城となった。



【横山城本曲輪跡】



【横山城跡山頂からの展望】



# 太閤記(司馬遼太郎)の史跡をめぐる

2018.09.15  
草 雲

## [18] 安土城跡 (山城)

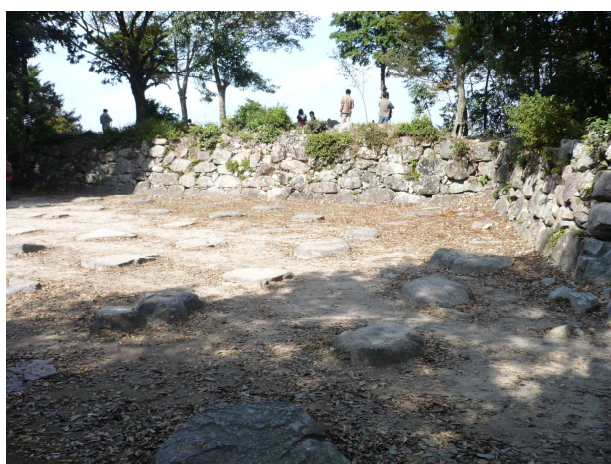
場 所：滋賀県近江八幡市安土町下豊浦

築城年：1576年

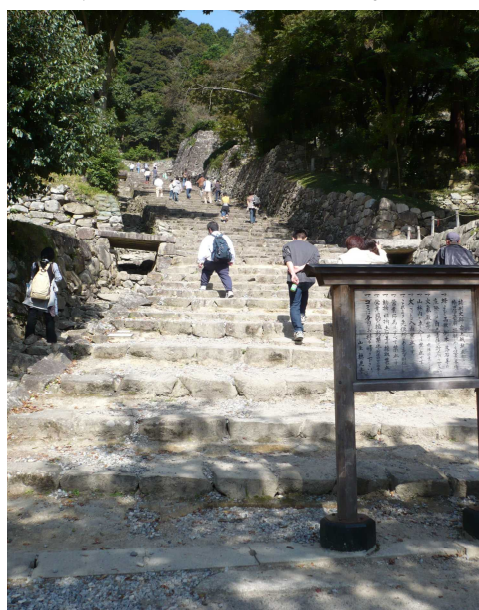
築城者：織田信長

主な城主：織田氏、明智氏

備 考：この城を築城した目的は、岐阜城よりも当時の日本の中央拠点であった京に近く、琵琶湖の水運も利用できたため利便性があり、加えて北陸街道から京への要衝に位置していたことから、「越前・加賀の一向一揆に具えるため」あるいは「上杉謙信への警戒のため」などと推察されている。城郭の規模、容姿は、太田牛一や宣教師の記述にあるように天下布武を象徴し、一目にして、人々に知らしめるものであり、山頂の天守に信長が起居、その家族も本丸付近で生活し、家臣は山腹、城下の屋敷に居住していたとされる。



【安土城本丸跡】



【安土城本丸へと続く石段】

## [19] 長浜城跡 (平城)

場 所：滋賀県長浜市公園町

築城年：1573年

築城者：羽柴秀吉

主な城主：羽柴氏、柴田氏、山内氏

備 考：1573年に羽柴秀吉が浅井長政攻めの功で織田信長から浅井氏の旧領を拝領した際、琵琶湖から離れた小谷城を嫌い、当時今浜と呼ばれていたこの地を信長の名から一字拝領し長浜に改名した。小谷城で使われていた資材や、あらかじめ、竹生島に密かに隠されていた材木などを見つけ出し、それらを使用し築城した。湖水に石垣を浸し、城内の水門から直に舟の出入りができた。城下町は小谷城下からそのまま移した。秀吉が最初に築いた居城で、秀吉の城下町経営の基礎を醸成した所でもある。



【長浜城跡】



【長浜城から琵琶湖を望む】